

新世界

(ヨシユア記一章一・九節、使徒言行録二章一・二三節) 二〇一〇年五月二三日(日)

ペンテコステ主日礼拝説教
日本基督教団 仙川教会 大串肇

本日は聖霊降臨祭主日礼拝とともに守っています。

ペンテコステにおける聖霊降臨によって使徒たちが聖霊によって福音を世界中に広め、各地に教会が誕生し、教会は神の力を得ました。この神さまの愛の力なくしては、教会はその使命を果たし得なかったのをごさいます。わたくしたちはその歴史を振り返りつつ聖書に描かれている信仰共同体が体験した聖霊の賜物をわたしたちも共有したいのです。

そこに聖霊が教会を守り、導く新しい世界が、新しい時代の訪れが記されています。その新世界とは何か、ご一緒に聖書の言葉に心の耳を傾けましょう。

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。(一・二節)

「五旬祭」(ペンテコステ)とは「過越祭」の五〇日後、「七週祭」という収穫祭の事です。ユダヤ教ではこれはシナイ山で律法が与えられたことを記念する、ユダヤでは最も小規模な巡礼の祭りです。麦の初穂でパンを焼き上げ神殿に奉納する祭儀が行われました。聖霊の初穂としてキリスト教会は「ペンテコステ」を祝うわけです。

「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。」(一・四・五)
「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」(一・八)

イエスの弟子たちはガリラヤで復活の主イエスの出会い、主イエスが命じられたように彼らはエルサレムで聖霊の賜物を祈り求めていたのであります。彼らが祈っていたのは、「家」とありますが、家では大勢の人々が入り切れないわけですから、二階の隠れがというよりもソロモンの回廊など神殿のどこかで一同が集まっていた、祈り礼拝していたと考えられます。

大事な点は、まさに主イエス・キリスト御自身のお約束通り、弟子たちの祈りに応えて主は聖霊を与えて下さったということです。ですから、これは彼らの功績があったからでも、彼らの願いがあったからでもなく、先ず主イエス・キリストがお語りになり、お約束したことが、祈っている人たちの思いに込める形で実現した。約束の成就として、主イエスの愛のしるしとして聖霊が与えられたのです。

そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。(三節)

二節では聖霊の象徴として、「激しい風」「音」そして三節では「炎」です。これらは旧約聖書ではやはり神さまの姿は見えませんが、そこに神さまが顕現されたときにそういう自然現象を伴うことが旧約聖書では日常茶飯のごとく描かれています。特に炎は、神さまの力の象徴です。洗礼者ヨハネは、かつて来るべき救い主の洗礼は「火」と「聖霊」と語りました(ルカ三・一六)。聖霊が眼に見える形で下る光景は、ほかならぬ主イエスご自身が洗礼を受けた場面を彷彿させます。ルカ福音書三章二一・一二一節です。

民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

注目していただきたいことは、主イエス・キリストの場合、この聖霊降臨の場面は周囲の人たちにはよくわからなかった、イエスだけにリアルな聖霊による洗礼の場面でしたが、このペンテコステの場合は聖霊が弟子たち一人ひとりの上にまさにリアルな形で「とどまった」という事実であります。

聖霊が特別な人物だけにとどまらず、主イエスの御言葉を聞いてその約束の言葉を信じている者には誰にでも与えられる恵みとなったのです。まさにこれが聖霊による新しい救いの世界、新世界がここに開かれたのではないのでしょうか。

しかし皆さん、聖霊の賜物は一人ひとり異なっています。しかし個人的な出来事ではありません。聖霊の導きによって洗礼を受けた者はこの喜びを独り占めするのではなく、他者と喜んで分かち合うことへ招かれているのです。そのことを表すのが次の出来事でした。

すると、一同は聖霊に満たされ、“**霊**”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あつげにとられてしまった。(四・六節)

弟子たちは聖霊を受け諸々の言語で語りだしました。これは全世界的な宣教がなされることを示す象徴的な出来事でした。九・一一節に書かれているリストは世界中の諸民族の代表者がペンテコステの証人として登場しています。しかし同時に驚き怪しむ者、戸惑う者あるいは弟子たちは「新しい酒に酔っている」だけだと嘲笑う者もそこにいたのです。

ここには世界宣教と共に、様々な迫害や抵抗あるいは殉教など、後のキリスト教会がたどった厳しい伝道の歴史を思い起こさせます。しかしながら、ペンテコステがキリストの約束が実現した出来事であったように主イエス・キリストの御約束は有効です。そしてその御言葉は今もわたしたちに希望の声として向けられているのであります。信仰による新しい人生、キリストの聖霊に生かされる命に誰もが召されています。新しい世界が私たち一人ひとりに今開かれたのです。

「あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられる……」

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

（一）一緒に祈り致しましょう。